

～取組概要～

【遠隔点呼システム導入による生産性の向上】

－中小企業デジタル導入加速化補助金利用例－

企業名：有限会社 いやタクシー

事業内容：道路旅客運送業

所在地：島根県松江市東出雲町611-5

設立：1998年／資本金：800万円／従業員：35名

■取組の経緯（課題）

本社と運転手のいる拠点計4か所あり、運行管理者が運転手の対面点呼をするための移動時間が1日あたり4時間かかり非効率だった。また、営業時間が長く、点呼は早朝や深夜など不規則な時間に実施するため、運行管理者に過度な負担がかかっていた。また、点呼の内容を書類に手書きしており、記入忘れなどにより点呼の実施について信頼性が低いといった課題もあった。

■実施内容

“e点呼PRO(クラウド型点呼システム)”を導入し、本社で営業所の運転手の点呼ができるようになった。また、手書きの点呼記録簿からクラウド上で点呼の状況のデータを一元管理した。



※上の写真は導入したシステム画面とシステムに合わせて追加導入した血圧計、アルコール検知器、免許証リーダーの機器類。各取得データはシステムに連動している。

■実際の導入に際して...

社員の年齢層が比較的高いが、以前から積極的なデジタルの活用（本社と拠点をZoomで常時接続。アプリで出退勤管理など）していたためシステムの導入も円滑にできた。

■導入効果

①運行管理者の負担減少による生産性の向上

運行管理者の拠点までの移動時間(月平均93.5時間)の削減、労働時間の大幅に短縮(所定労働時間の約52～54%削減)

②点呼内容の質と運転手の健康管理面の向上

運転手の点呼内容（血圧、体温など）が直接システムにとりこまれるため、点呼の正確性が向上。また、点呼や体調の自己判断の情報もデータとして蓄積されていくため、その内容を確認し、運転手に負担のない勤務シフトを割り振り易くなり、事故の予防にも役立っている。

③より安全・安心なバスの運行の実現

業務効率化により捻出された時間を使って運行管理者と運転手とのミーティングをする機会を増やし、バス運行のトラブルを予防するための情報（危険個所の共有・乗客の情報等）の共有を徹底することで、より安全・安心なバスの運行につながっている。